

政治學概論 |

(7) 非「自由民主主義」体制

民主主義でない政治体制

■自由民主主義的な政治体制（モデル）

= 基本的人権の尊重、公正な選挙による議会
複数政党制（政権交代） 法の支配と三権分立
言論・表現・報道・結社の自由 団結権

※たとえ選挙と議会があっても、司法の独立性が弱い、言論の自由がない等の政治体制は「民主主義国」とは見なされないことがある

■民主主義の難しさ = 21世紀に入っても、世界には民主主義国とは定義されない国がかなりある = 国民の政治意識

民主主義に対抗する政治体制

- 全体主義（ファシズム） = 公権力の私的領域への介入
政治的自由の否定、カリスマ的独裁者
→ 20世紀前半のドイツ、イタリア
- 社会主義 = 一党独裁、計画経済、生産手段の公有
→ 20世紀のソビエト連邦、東ヨーロッパなど
- 権威主義体制 = 「ソフトな非民主政支配」
選挙も複数政党もあるが、体制批判は不可、自由も制限

社会主义の歴史的役割

19世紀後半 マルクス、エンゲルス「共産党宣言」「資本論」
——「万国の労働者団結せよ！」

経済構造・格差に着目、「資本家」による労働者の搾取を
「プロレタリア独裁」によって解消する ⇒ 全体主義に通底

※ 1917年、ロシア革命（社会主义国の勃興）
(暴力) 革命による体制変換

自由民主主義国 の 福祉国家化 に 一定の影響
「社会民主主義」路線 = 企業活動と富の私有、政治的自由を前提

権威主義体制の支配強化

■民主化（権威主義から民主主義へ）は「逆戻り」もある

- ①政府が専制的性格を強める
- ②議会活動・司法の独立の形骸化
- ③言論・報道の自由の制限

※権威主義体制の方が「危機」「有事」に対応しやすい

民主主義の安定度 = 経済的豊かさが影響

中国の経済大国化によって、非民主主義国の正当化の主張